

経営比較分析表（令和元年度決算）

福島県南相馬市 南相馬市立総合病院

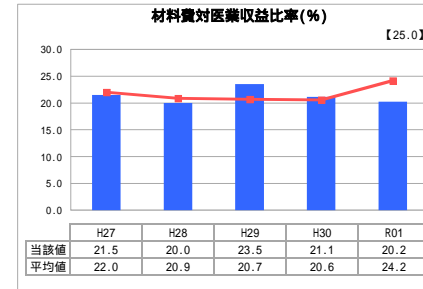
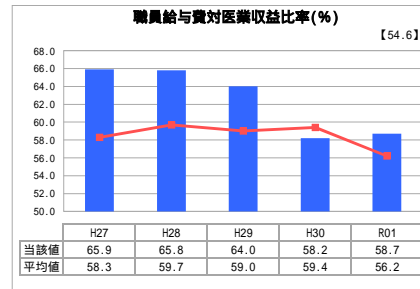
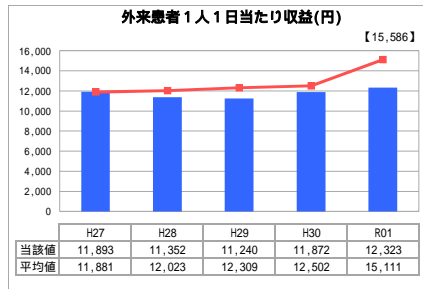
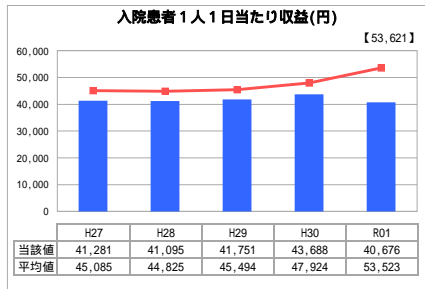
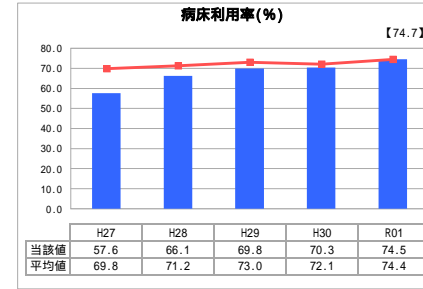
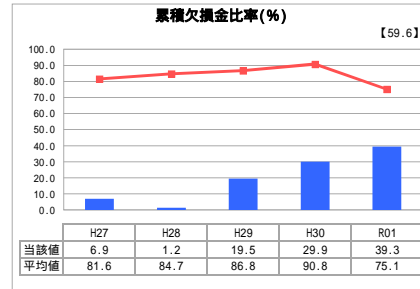
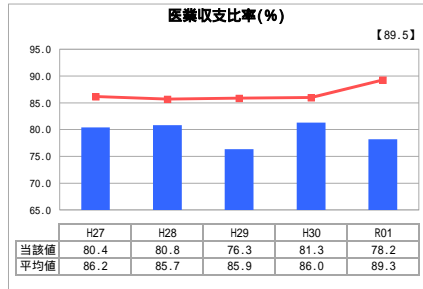
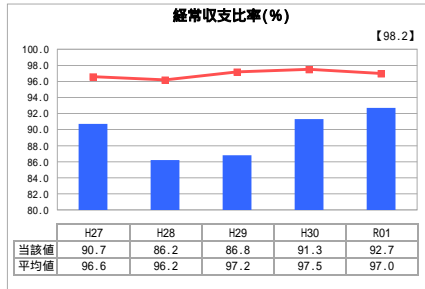
法適用区分	業種名・事業名	病院区分	類似区分	管理者の情報
当然財務	病院事業	一般病院	300床以上～400床未満	非設置
経営形態	診療科数	DPC対象病院	特殊診療機能 1	指定病院の状況 2
直営	24	-	ド透！未訓	救護 災 輪
人口（人）	建物面積（㎡）	不採算地区病院	看護配置	
59,830	21,321	非該当	10：1	

許可病床（一般）	許可病床（療養）	許可病床（結核）
250	50	-
許可病床（精神）	許可病床（感染症）	許可病床（合計）
-	-	300
稼働病床（一般）	稼働病床（療養）	稼働病床（一般+療養）
230	-	230

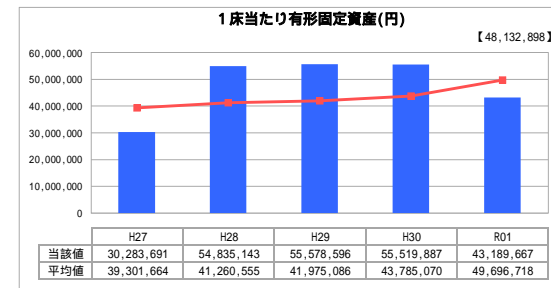
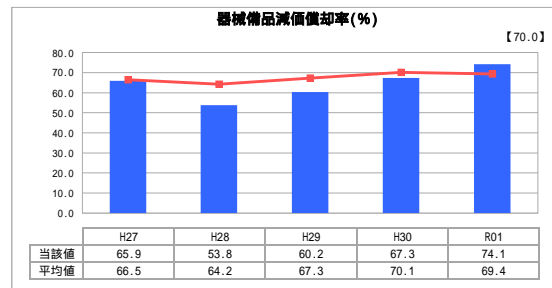
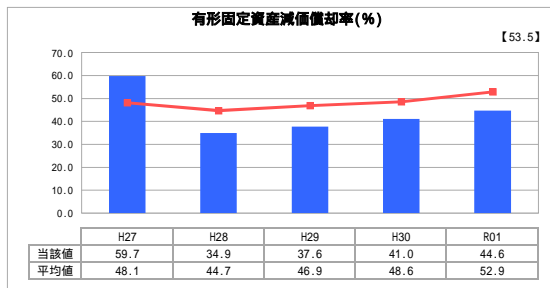
グラフ凡例
 当該病院値（当該値）
 - 類似病院平均値（平均値）
【】 令和元年度全国平均

- 1 ド...人間ドック 透...人工透析 I...ICU・CCU 未...NICU・未熟児室 訓...運動機能訓練室 ガ...ガン（放射線）診療
 2 救...救急告示病院 臨...臨床研修病院 が...がん診療連携拠点病院 感...感染症指定医療機関 へ...へき地医療拠点病院 災...災害拠点病院 地...地域医療支援病院 特...特定機能病院 輪...病院群輪番制病院

1. 経営の健全性・効率性



2. 老朽化の状況



公立病院改革に係る主な取組（直近の実施時期）

再編・ネットワーク化	地方独立行政法人化	指定管理者制度導入
-	-	-
年度	年度	年度

地域において担っている役割

病院は、地域災害拠点病院及び原子力災害拠点病院として指定を受け、相双医療圏の中核病院として二次救急医療を担っている。
 また、地域内の医療機関で受け入れがでない透析患者への対応のため、平成30年3月から透析医療の提供を開始している。

分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

令和元年度途中から小高病院を廃止し、附属小高診療所とし、合算して指標を算出していることから、旧小高病院の解体に伴う資産減耗費を計上している附属小高診療所の影響で医業収支比率が昨年度より悪化しているものの、総合病院単体と比較すると、内科や消化器科の常勤医師などによる医療収益の増やメンテナンスなどの活用による原価低減などの取組に伴う材料費削減等により、前年度より2.3ポイント増の83.6%となった。また、算定方法の見直しによる他会計繰入金等の増などにより、総合病院単体での経常収支比率は前年度より5.8ポイント増の97.1%となり、類似平均値となった。
 しかし、増収・増患に向けた様々な取組により入院患者数は増え、病床利用率は前年度より改善したものの、手術件数の減少や入院患者の高齢化に伴う平均在院日数の長期化などにより、入院診療単価が低下したことで入院収益は前年度よりも悪化したため、引き続き経営健全化に向けた取組を進めていく必要がある。

2. 老朽化の状況について

令和元年度に230床から300床に許可病床が増加したことにより、1床あたり有形固定資産は大きく減少となっている。
 平成28年度に脳卒中センターを建設したことに伴い、有形固定資産減価償却率・器械備品減価償却率が一時的に低下したものの、本館については平成4年度の建設以降は大規模改修等を実施していないことから設備の老朽化が進んでおり、数年以内に改修工事等の対応が必要となる可能性が高い。
 また、器械備品については類似平均及び全国平均より老朽化が進んでいる状況から、設備同様に更新が必要となるものと予想される。

全体総括

増収・増患に向けた各種取組、経費削減などの取組により、附属小高診療所を除いた総合病院単体でみると各指標は前年度数値よりも概ね改善傾向にある。しかしながら病院経営の根幹となる入院収益の減など経営健全化に向けた課題は残っている。
 また、設備・器械備品の老朽化が進んでいる現状を踏まえ、計画的な設備投資が必要となると予想されるが、赤字が続いている現状では難しい状況である。
 今後は経営健全化に向けた取組を強化し、地域が必要とされる医療機能の充実及び地域に不足する医療の提供を安定的にできるように努めていかなければならない。

類似病院平均値（平均値）については、病院区分及び類似区分に基づき算出している。